

エコアクション21
2022年度環境経営レポート

2022年4月～2023年3月

2023年8月10日



1. 環境経営方針

基本理念

マテックス株式会社は“窓をつうじて社会に貢献する”を経営理念の第一条に掲げております。
地球温暖化による環境破壊が、人類の活動に由来した問題であることをきちんと認識し、
環境負荷の軽減および環境保護に係わる社会貢献活動を積極的に実施します。

基本方針

当社は、社内の環境配慮意識を高めるための活動を推進するとともに、CO₂等の温室効果
ガスの抑制に効果的な、省エネ型の開口部（窓）の提案・販売を積極的に取り組みます。
そのために、次の行動指針を定め、低炭素社会の実現に貢献する努力をします。

1. 環境意識の向上を図り環境経営の継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規を遵守します。
3. 資源・エネルギー（水、用紙、電気、ガソリン燃料）使用から発生するCO₂排出量の削減に取り組みます。
4. 廃棄物の適切な管理及び処理に努めます。
5. 省エネ型の開口部（窓）の普及により家庭からのCO₂排出量削減に努めます。
6. 地域の社会貢献団体との協働を推進します。
7. 組織への浸透を図るため職場チームでの取り組みを推進します。

2009年10月1日制定
2023年 8月1日改正
マテックス株式会社
代表取締役社長 松本浩志

2. 事業活動の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

マテックス株式会社
代表取締役社長 松本浩志

(2) 所在地

〒170-0012 東京都豊島区上池袋二丁目14番11号

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者： 総務部 部長 松本俊輔
E A 2 1 担当者： 総務部 係長 和田里美
電話番号： 03-3916-2634
F A X 番号： 03-3916-2645

(4) 事業内容

建築用板ガラス・住宅サッシの販売及び設計施工、樹脂窓の製造
複層ガラスの製造、ガラスの切断・加工

一般建設業許可番号 国土交通大臣許可(般-5)第24988号
特定建設業許可番号 国土交通大臣許可(特-5)第24988号
道具商 東京都公安委員会許可 第305502217585号

(5) 資本金 100,000,000円

(6) 事業の規模

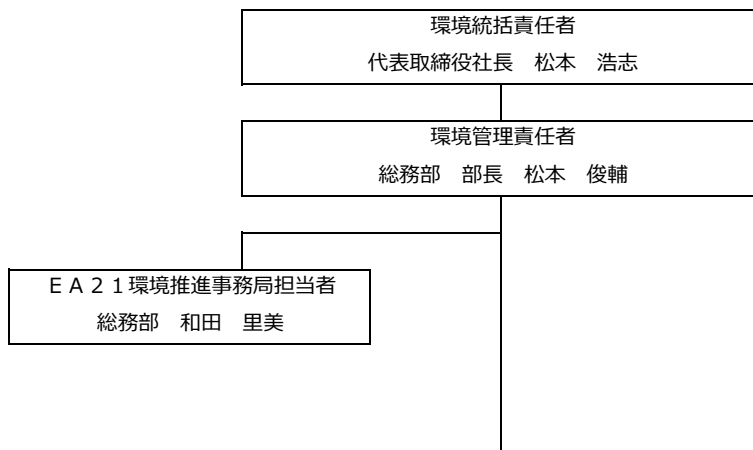
2022年度売上高 147億5,102万円

従業員数 280名 (内、準社員13名)

所在地および床面積

本社・倉庫	〒170-0012 東京都豊島区上池袋2-14-11	1,925㎡
小金井営業所	〒184-0013 東京都小金井市前原町5-1-17	1,097㎡
さいたま営業所	〒330-0855 埼玉県さいたま市大宮区上小町1405	883㎡
草加営業所	〒340-0003 埼玉県草加市稲荷6-12-16	721㎡
横浜営業所	〒224-0054 神奈川県横浜市都筑区佐江戸町182	794㎡
柏営業所	〒277-0863 千葉県柏市豊四季945-47	1,379㎡
新座営業所	〒352-0002 埼玉県新座市東3-2-1	1,168㎡
相模原営業所	〒252-0216 神奈川県相模原市中央区清新6-16-13	816㎡
戸田センター	〒335-0027 埼玉県戸田市氷川町2-3-12	1,699㎡
鳩山センター	〒350-0306 埼玉県比企郡鳩山町竹本1315	4,173㎡

(7) 実施体制図



本社	小金井 営業所	さいたま 営業所	草加 営業所	横浜 営業所	柏 営業所	新座 営業所	相模原 営業所	戸田 センター	鳩山 センター
----	------------	-------------	-----------	-----------	----------	-----------	------------	------------	------------

	役割・責任・権限
代表者（社長） (認証登録範囲のトップ)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者 (環境経営システム 代表者の代理)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ票を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局 (環境管理責任者の補佐)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施 自部門における環境方針の周知 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加（各自の役割の遂行）

3. 環境活動の取組結果と評価

2022年度は、環境目標を2021年度を基準年度としています。

項目	単位	2021年度	2022年度 (2022/4~2023/3)		達成	達成率		
		実績	目標	実績				
目標数値	二酸化炭素 排出量	Kg-CO2	693,997	726,000	632,162	○	115%	
使用 量 内 訳	電気	使用量	kWh	734,570	846,000	742,324	○	114%
	ガソリン	使用量	ℓ	38,438	40,000	38,747	○	103%
	軽油	使用量	ℓ	87,377	97,000	85,851	○	113%
	灯油	使用量	ℓ	7,686	6,000	5,675	○	106%
総排水量		使用量	m ³	3,209	3,700	3,231	○	115%
産業廃棄物排出量		排出量	kg	1,830,075	1,450,000	1,983,408	×	73%

※電気 排出係数 (kg-CO2/kWh) 調整後

東京電力エナジーパートナー(株) 0.441 (前年0.441)、大和ハウス工業(株) 0.417 (前年0.523)
湘南電力(株)0.470 (前年 0.487)、(株)横浜環境デザイン0.460 (前年 0.460)

※横浜営業所のCO2排出量は、0 kg

(太陽光パネル42台を設置し、自家発電及び再生可能エネルギーを使用による。 340W×42枚=14.28kW)

①電力使用量の削減

【取組内容】 省エネタイプの照明器具への取替、断熱性の高いガラスへの交換、空調機の定期的フィルター清掃
空調の適温管理、照明の未使用時電源OFFの実施、太陽光パネル設置、再生可能エネルギーの導入

【評価】 目標に対し、達成率114%
事務所内の蛍光灯の未使用時の電源OFFや空調の適温管理等の節電対策が
節電対策が習慣化されている

【次年度】 デスクトップPCをノートPCに入れ替える
鳩山新工場に太陽光パネル設置予定
再生可能エネルギーの導入

②ガソリン使用量の削減

【取組内容】 アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評価】 目標に対し、達成率103%
数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次年度】 計画配送による適正燃費の把握
営業車両を電気自動車(再エネ使用)へ順次移行

③軽油使用量の削減

【取組内容】 アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評価】 目標に対し、達成率113%

数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次年度】 計画配送による適正燃費の把握

④灯油使用量の削減

【取組内容】 暖房機を点けっ放しにしない、カーテンを開けっ放しにしない。

【評価】 目標に対し、達成率120%。

鳩山センターの製造工程でシールのシリコンを乾燥させるため、冬場のジェットヒーターの使用が多くを占めることから効率化を追求していく。

【次年度】 電氣化を推進

⑤水道使用量の削減

【取組内容】 水を出したままにしない。漏水のチェックを定期的実施する。

【評価】 目標に対し、達成率115%

鳩山センターのペアガラス製造工程で輸入ガラスの洗浄が多くを占めることから効率化を追求していく。

【次年度】 今後も継続する。簡易的な漏水検査を実施する。

⑥産業廃棄物の適切な管理及び処理

【取組内容】 分別を徹底しリサイクルに努める。5S活動による倉庫内の整理整頓。

【評価】 目標に対し、達成率73%。

全社的に倉庫内の5S改善活動の推進による不要なガラス等の処分を実施したことにより、倉庫内の整理整頓を進めることができている。

【次年度】 分別を徹底しリサイクルに努める。

産廃処理場の視察及び処理・分別の理解

⑧ イベント出展、講座開催

<活動実績>

2022年 7月：第23回リフォーム産業フェア2021 in 東京 [madolino (マドリノ) として出展]

2022年 9月：よこはま省エネルギー住宅アカデミー特別講座『マンション窓断熱改修講座』

2023年 3月：よこはま省エネルギー住宅アカデミー特別講座『マンション窓断熱改修講座』



リフォーム産業フェア 出展ブース



よこはま省エネルギー住宅アカデミー特別講座

⑧ その他の活動

【エコ窓普及促進会】

マテックスが事務局を務めており、CO₂など、温室効果ガスの排出を抑制するために、断熱リフォームによる窓の高性能化が効果的かつ重要なこと、またその導入を促進する三省連携補助金を一般のお客様や関連施工業者に広く認知してもらい、省エネ効果の高い樹脂製内窓やエコガラスの普及促進を図っています。自社ビジネスの発展はもちろん、低炭素社会を実現し、地球環境保護へ貢献していくことを目的としています。

<活動実績>

- ①2022/6/1-7/1：板橋区「令和4年度 エコライフフェア夏」WEB
- ②2022/6/5：市川市「いちかわ環境フェア」
- ③2022/6/6-30：府中市「府中環境まつり2022」WEB
- ④2022/6/12：葛飾区「かつしか環境・緑化フェア2022」
- ⑤2022/11/19：小平市「小平市環境配慮指針啓発支援講座」
- ⑥2023/2/1-3/1：板橋区「第22回環境なんでも見本市」WEB版・対面版同時
- ⑦2023/2/17：三鷹市「三鷹市環境講座」
- ⑧2023/3/2-4：豊島区「第16回としまMONOづくりメッセ」（マテックス株式会社として出展）
- ⑨2023/3/18：豊島区「第17回社会貢献見本市」

SPRING FEST

(スプリングフェスト)

Sustainable = 持続可能な
 Partners' = パートナー達の
 RING = 環
 FEST(Festinate) = 加速する

目的: 持続可能なビジネスにシフトする。
 ねらい: 相互にパーパスを立て、戦略を立案する。

お客様にとって

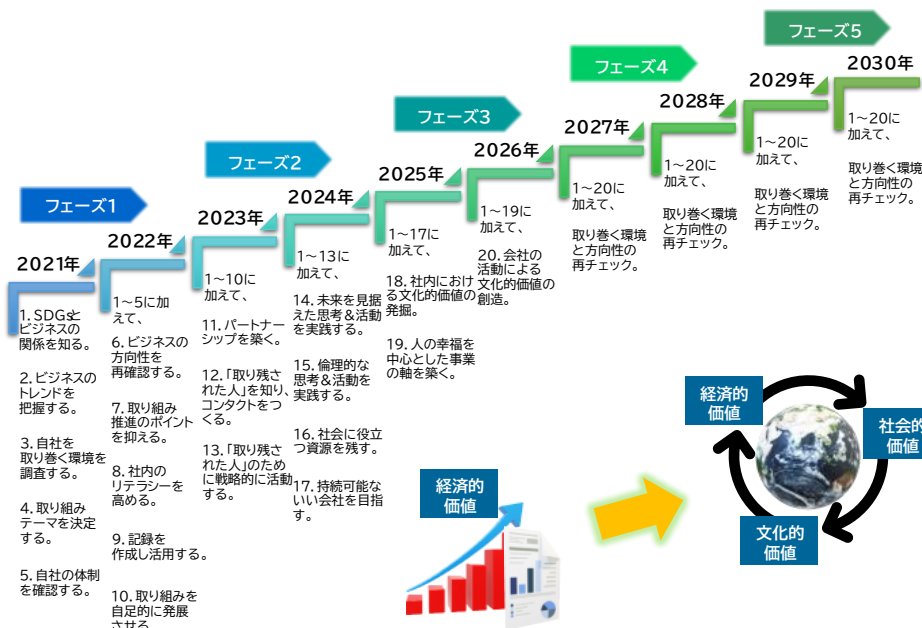
- ・SDGsの理解を深める。(経営者、社員ともに)
- ・自社のSDGs指針の策定をする。
- ・ソリューションとしての提案力をつける。(専門性を価値に変える)
- ・お客様と工務店様との新たな関係構築。
- ・自社のSDGsをブランド化する。

協賛企業にとって

- ・SDGsの理解を深められる。
- ・サプライチェーンのSDGsシフトを促す。
- ・社会的価値軸での関係構築。
- ・ソリューションとしての提案力をつける。(専門性を価値に変える)
- ・自社のSDGsをブランド化する。

© M ATEX CORPORATION all rights reserved

『SPRING Fest』のロードマップ

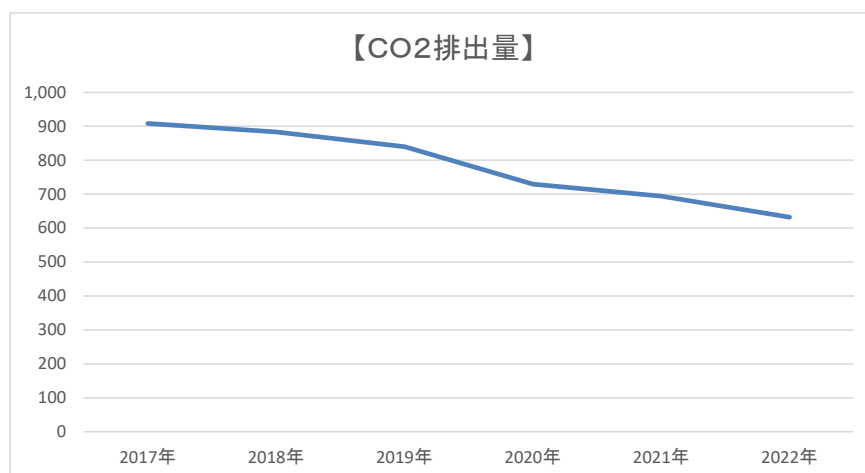


© M ATEX CORPORATION all rights reserved

環境負荷数値実績推移について

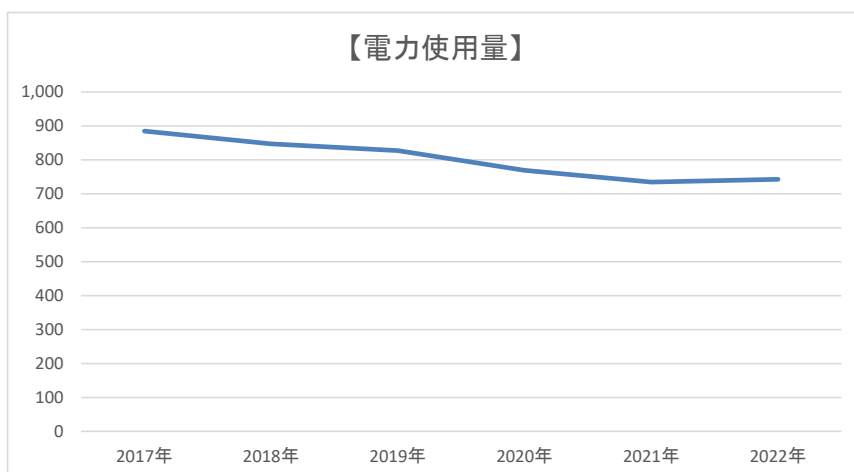
【CO₂排出量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
排出量 Kg-CO ₂	908,349	883,353	839,927	729,905	693,997	632,162
排出量 t-CO ₂	908	883	840	730	694	632



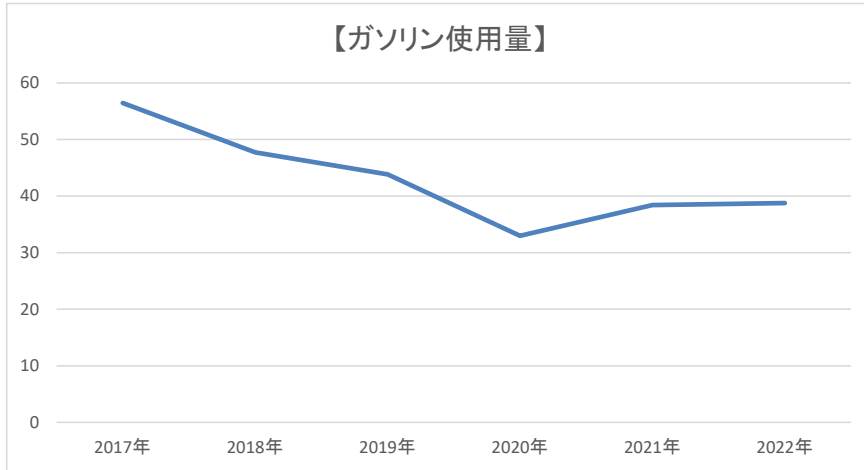
【電力使用量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量 kWh	884,789	846,783	827,354	769,498	734,570	742,324
使用量 千kWh	885	847	827	769	735	742



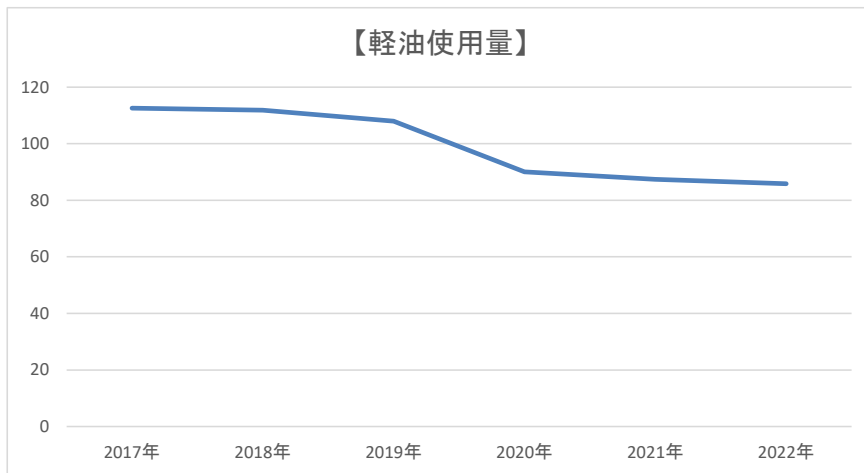
【ガソリン使用量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量 ℓ	56,459	47,728	43,847	32,979	38,428	38,747
使用量 千ℓ	56	48	44	33	38	39



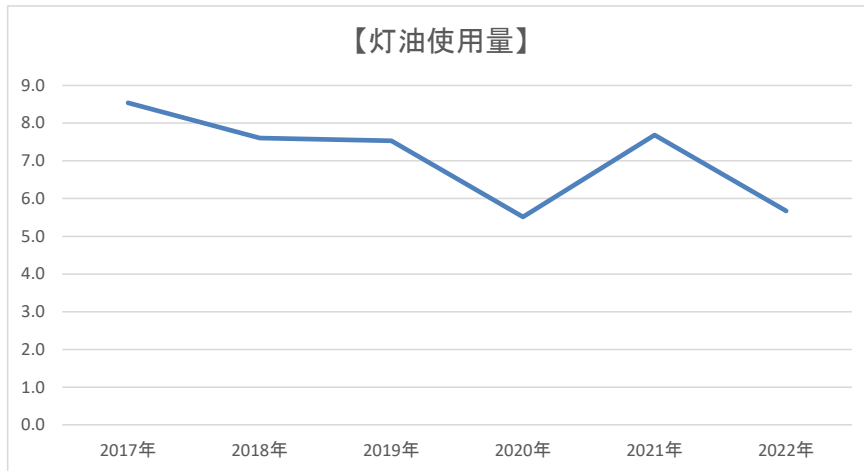
【軽油使用量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量 ℓ	112,575	111,820	107,995	90,061	87,377	85,851
使用量 千ℓ	113	112	108	90	87	86



【灯油使用量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量 ℓ	8,539	7,603	7,531	5,514	7,686	5,675
使用量 千ℓ	8.5	7.6	7.5	5.5	7.7	5.7



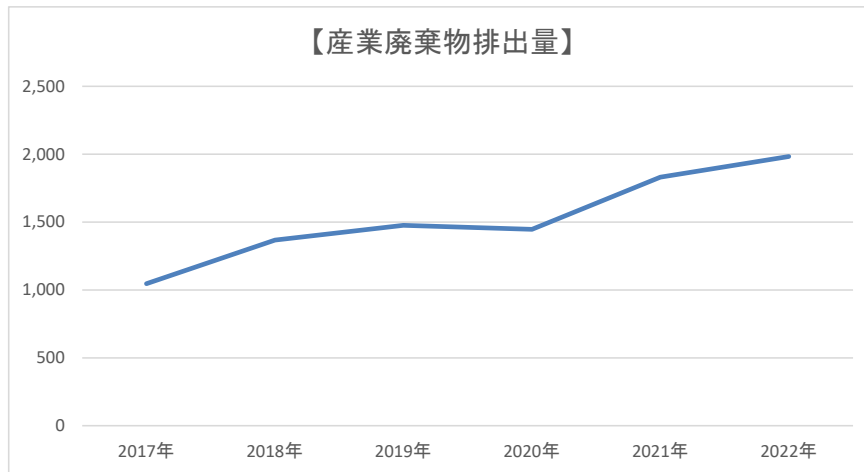
【総排水量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
使用量 m ³	3,439	3,379	3,548	3,745	3,209	3,231



【産業廃棄物排出量】

年度	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
排出量 t	1,046	1,368	1,476	1,447	1,830	1,983



4. 次年度以降の環境経営目標及び環境活動の内容と中長期計画

(1) 環境負荷削減目標数値

項目	単位	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
		基準	2023/4~ 2024/3	2024/4~ 2025/3	2025/4~ 2026/3	2026/4~ 2027/3	2027/4~ 2028/3
目標削減率	二酸化炭素		前年比14%増	前年比30%減	前年比19%減	現状維持	現状維持
	使用量		現状維持	現状維持	現状維持	現状維持	現状維持
目標数値	二酸化炭素	kg-CO2	632,162	543,000	390,000	318,000	318,000
内 訳	電気	kg-CO2	306,232	214,000	67,000	0	0
	ガソリン	kg-CO2	89,893	90,000	90,000	90,000	90,000
	軽油	kg-CO2	221,497	223,000	223,000	223,000	223,000
	灯油	kg-CO2	14,131	16,000	10,000	5,000	5,000
総排水量	m ³		3,231	3,500	4,000	4,000	4,000
産業廃棄物排出量	kg		1,983,408	1,910,000	1,910,000	1,910,000	1,910,000

(2) 環境活動の内容

2023年 ・ 本社及び営業所7拠点に再生可能エネルギーを導入予定

2024年 ・ 鳩山センター第三工場に太陽光パネル384枚を設置し、一部自家発電力を使用
550W×384枚=211.2kW

・ 鳩山センター及び戸田センターに再生可能エネルギーを導入予定

1. 二酸化炭素排出量の削減

- 再生可能エネルギーへの切り替え
- 電気自動車の導入 ※
- エアコンの設定温度を常に意識する
- 私服勤務推進による服装での温度調節
- パソコンは外出時に消す
- アイドリングストップ、急発進、急加速しない
- 車には余計な荷物を積まない
- 効率の良い配送をする
- 退社時間を遵守する

2. 水道使用量の削減

- 節水を促す表示を行い、節水意識の向上
- 食器洗いや手洗いの際、水を出したままにしない
- 漏水検査を実施する

3. 産業廃棄物排出量の削減

- 発注ミス・破損を無くすようにする
- ペアガラスはグレチャンを外し、ジャミと産廃を分ける
- 5S改善活動の推進により、整理整頓を実施する

4. エコ窓の普及促進活動等

- 地域の社会貢献団体との協働
- 補助金活用によるエコガラスの普及促進
- 樹脂窓の販売促進
- ガラスのリユース

5. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

- (1) 環境関連法規の遵守状況を自ら確認及び評価した結果、問題ありません。
- (2) 関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。
- (3) 訴訟も、過去3年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

□見直し実施日 2023年8月10日

□出席者 環境統括責任者： 松本浩志
環境管理責任者： 松本俊輔
EA21環境推進事務局担当者： 和田里美

□見直し内容

- ①環境基本方針変更の必要性： あり
- ②環境目標変更の必要性： あり
- ③実施体制変更の必要性： なし

□2022年度活動結果と2023年度の取り組み

CO2排出量削減に向けて当社の課題は、電気・ガソリン・軽油使用量の削減と認識しており、2022年度は、削減に向けての対策を引き続き実施してきました。2023年度の取り組みとしては、引き続き再生可能エネルギーを含む電力会社の見直しや電気自動車導入の検討、樹脂窓の普及に努めて参ります。
(2030年までにCO2排出量マイナス55%)

□代表者コメント

エネルギーや物資の価格高騰、グローバルサプライチェーンの混乱等をマネジメントしながら事業継続の新たな基盤を築くこと、またその中で脱炭素社会の実現に資するモデルに転換することが喫緊の課題となっています。私たちは「窓から日本を変えていく」をビジョンに掲げ、これまでも気候危機をはじめ過度な経済競争が誘発するあらゆる環境問題に対峙してきましたが、今なお一層の環境経営品質の向上とスピード感をもった取り組みが急務であると再認識しています。マテックスは社員一人ひとりの人間性を磨きながら戦略的に企業文化を醸成し、脱炭素社会の実現、住環境に起因する健康リスクの低減、深刻化する自然災害の問題に立ち向かうために飽くなき追求をして参ります。人に、社会に、環境にとって、持続可能な在り方を問い続けながら、エコアクション21を最大限に活用し、これからの時代に相応しい人づくりに力を注ぐとともに未来から歓迎される窓の卸商社像を目指していく所存です。

マテックス株式会社
代表取締役社長 松本浩志

マテックスが目指すSDGs

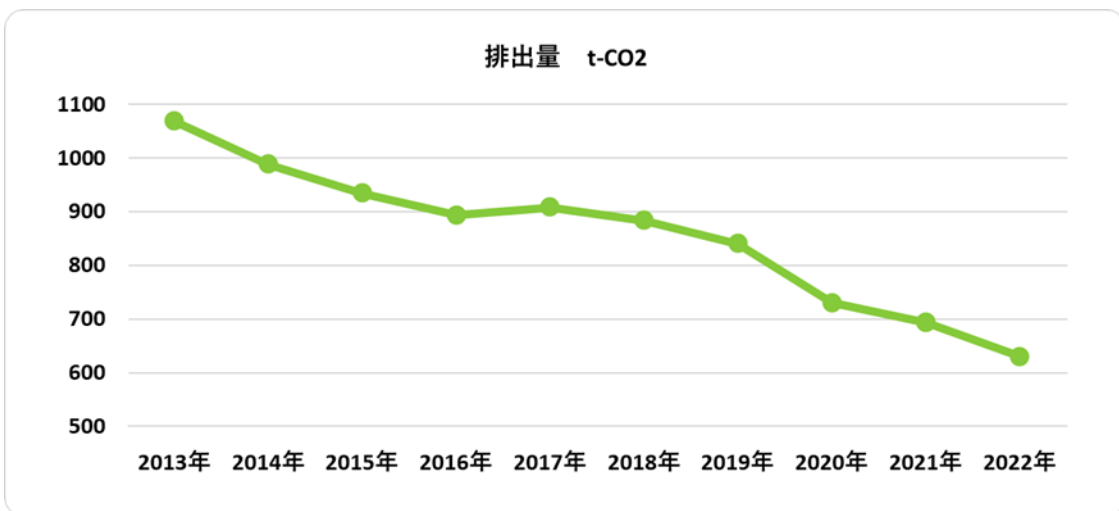
SDGs17 の目標の中でも特にマテックスの事業が大きく関わる 2 点について、具体的な数値目標を掲げます。

1 つは、社内から発生するCO₂ の排出削減に関するもの。もう 1 つは、事業をつうじてCO₂ の排出削減に寄与できるものです。

いずれの目標も数値化し、その進捗を皆で共有しながら2030 年に向けてチャレンジしていきます。

CO₂ 排出量マイナス 55%

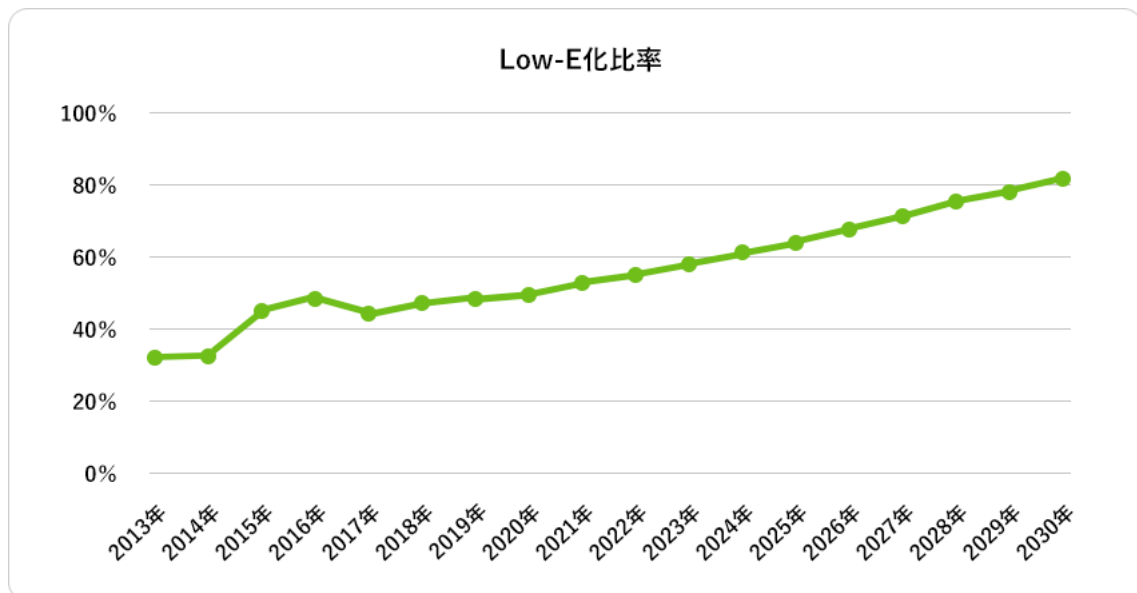
SDGs 国内指針ではCO₂ 排出量を2013 年比、2030 年までにマイナス 55%を目指しています。マテックスは2010 年より「エコアクション21」の認証を取得し、社内のCO₂ 排出量の可視化に取り組んできました。2013 年度1,068 トンだった排出量を、2030 年度には481 トンを目指し、社内設備や運用の見直し、そして社員一人ひとりの省エネ意識を結集して取り組んでいきます。



エコガラスの普及促進で社会からのCO₂排出量削減

17万5千トン

板硝子協会の発行する「エコガラスのLCA（ライフサイクルアセスメント）報告書」には、エコガラス（Low-E 複層ガラスの共通呼称）が原材料の採掘から製造、配送、そして廃棄に至るまでに排出するCO₂、そして家庭に導入した時に削減できるCO₂について、それぞれ示されています。マテックスはエコガラスの普及を積極的に進める事で、仮に一枚ガラスが社会に流通した場合と比較して2013年比、2030年までに17万5千トンのCO₂削減に寄与できるものと考えています。その為に必要なLow-E化率（複層ガラス以上の製品の出荷比率は80%であると試算）の達成にチャレンジします。



CORPORATE ACTION

マテックスの事業はSDGs17の目標につながっています。その活動内容を紹介します。

脱炭素社会実現に向けた場づくり

エコ窓リフォームの普及活動と補助金制度の設計支援



エコ窓普及促進会/制度設計の提案

エコリフォーム補助金制度の構築を提案するセミナーを地方自治体の環境政策課、住宅課を対象に開催しています。千葉県柏市の「柏市エコハウス促進総合補助金制度」の導入を皮切りに板橋区、新宿区、豊島区、武蔵野市、府中市、川崎市、多摩市の制度づくりの支援をしてきました。



エコ窓普及促進会/生活者コンタクト

2009年に発足した地球温暖化対策地域協議会「エコ窓普及促進会」は、「窓」のエネルギーロス対策について広く知らせると同時に生活者の環境リテラシー向上を目的としています。生活者に「日常生活の”CO2削減“や”健康維持“には窓の断熱が重要なんです！」ということを知っていただくために地方自治体の環境系イベントへ参画し、窓の断熱改修の普及促進活動を行っています。



よこはま省エネ住宅アカデミー

2015年より、横浜市公民連携事業「テーマ型共創フロント」に採択されマンションにお住まいの生活者の方を対象に省エネルギー住宅アカデミーを開催し、エコリフォームの効果と管理組合の合意形成からエコ窓導入までの支援をしています。「住まい手による、住まい手のためのマンション窓断熱改修講座」には、たくさんの方のご参加をいただいています。



健康省エネのライフスタイル提案

機能の優位性を訴求するばかりでなく、生活者の新しいライフスタイル提案を基軸とした窓辺のプチリノベーション「madolino」を展開。感性価値の提案からはじまり、後に健康省エネの啓蒙に努めることで関心をもって頂ける生活者層が拡がりつつあります。



社会志向型地域企業の養成



地域企業サポート/元請転換

家庭における「エコソリューションとしての窓」を的確に提案提供できるパートナーを輩出することに価値を置き、下請業から生活者向けの元請サービス業へシフトするためのサポート活動です。2008年のスタート時7店に留まっていたエコ窓リフォーム店を、2020年現在には300店強規模にまで拡げています。

地域企業サポート/真の健康省エネ住宅

2016年からは、真の健康省エネ住宅を社会に広めるために新築を手がける地域工務店までサポートの範囲を広げました。低炭素社会づくりに不可欠な高性能住宅のづくり方のノウハウを現場見学会やセミナーを通じて提供しています。見学会には2020年現在で200社を超える企業様にご参加いただいています。

持続可能社会の実現に向けた人づくり次代を担う 若者の育成と社内大学の創設



「環境課題解決と仕事のモチベーション」セミナー

学生に対しては「環境課題解決と仕事のモチベーション」を題材としたセミナーやワークショップを提供しており、キャリア設計の支援を越えた環境リテラシーの養成と社会志向型人材の育成に取り組んでいます。

【連携校】和光大学、立教大学、東洋大学、日本大学、大正大学、嘉悦大学、法政大学、文京学院大学、東京家政学院大学、東京成徳大学



インターンシップによる環境リテラシー教育

インターン生に事業で社会課題を解決する意義をお伝えすべく、短いものでは1dayから、長期のものでは6ヶ月まで受け入れしています。今日では大学の教授やキャリアセンターからも弊社のインターンシッププログラムに関心が寄せられ、教え子の参加を促されるケースが多く出てきています。また、インターン経験者が後に正社員として入社を希望するケースもあり、環境問題の解決に取り組む意欲のある学生を応援する場づくりが実現しつつあると確信しています。

社内大学の創設と新しい終身雇用の実現

新しい終身雇用を実現すべく“マテックスカレッジ”を創設しました。ビジネスパーソンとしての知識やスキル習得はもちろん、一人ひとりが人間としての幅をひろげるため、魅力的な大人になるためのプログラムを用意しています。



持続可能社会の実現に向けたまちづくり人づくりステキなまちづくり、ロングライフへのシフト



地域社会貢献団体の支援/としま情熱基金

より良い地域社会づくりに必要な活動を支援するために、としま NPO 推進協議会と区内の事業者が中心となって設立した基金（委員長：マテックス株式会社 松本浩志）です。

年に一度、基金助成を目的とした事業提案を区内の NPO より募集し、書類審査、最終審査会によるプレゼンテーションを経て採択された事業に支援金を授与致します。一時金による支援に留まることなく、循環型の活動に発展していくことを目指し取り組んでおります。

住まい・健康・環境の取り組み/ 一般社団法人ロングライフ・ラボ

(一社)ロングライフ・ラボは、人、コミュニティ、地球環境が、健全な状態を維持していくための情報提供などを行うことで、持続可能な社会を形成することを目的に設立されました。

- ①省エネで健康を維持増進できる住宅
 - ②自然治癒力を高めて過度な医療に頼らない健康法
 - ③地球温暖化対策思想、地球環境保全思想の普及以上
- 3つの活動を軸に展開しています。



持続可能社会の実現を支えるモノづくり高性能窓の製造 から見える新しい社会のスタンダード



高性能窓の製造

今日では国内新築戸建住宅の約80%に採用され、窓ガラスのスタンダードとなったエコガラスの普及を、製造供給する立場から支えてきました。脱炭素社会へのシフトを加速するために、環境先進国で標準仕様となっている樹脂製サッシの製造も行っており、より一層高まる窓の断熱基準のご要望に応え続けています。

